

令和6(2024)年度～令和7(2025)年度 重点取組について

1

第二次健康増進計画の重点取組

平成28(2016)年度～ 平成29(2017)年度	2年間	「市民や関係機関への計画の周知」
平成30(2018)年度～ 令和2(2020)年度	3年間	「青壮年期への働きかけの強化」 「糖尿病予防に向けた取組」
令和3(2021)年度～ 令和4(2022)年度	2年間	「青壮年期への働きかけの強化」 「生活習慣によるがんの予防と早期発見への取組」
令和5(2023)年度	1年間	「青壮年期への働きかけの強化」 保護者世代への働きかけ 「生活習慣によるがんの予防と早期発見への取組」 がんサポート体制・相談窓口の周知

2

令和5（2023）年度重点として取組を行ったことで…

令和6（2024）年度事業開始予定

AYA世代への取組として

- **ワンコインクーポン配付**
（25歳、31歳、35歳、39歳は、子宮頸がん集団検診を500円で受診できる）
- **土曜日検診** 子宮頸がん検診、乳がん検診
- **若年がん患者在宅療養支援事業**
（介護保険制度の対象とならない40歳未満のがん患者に、利用した在宅サービス利用料の一部を助成する）

3

重点取組の選定

第二次健康増進計画の計画期間は、あと2年間
計画の目標項目のうち、達成に課題が残るものに取り組みたい

基準値（H26）と比べ、現状値（R4）が悪化している項目かつ
中間評価値（R元）と比べて、現状値（R4）が悪化している項目
を確認

※資料5 参照

4

栄養・食生活	<ul style="list-style-type: none"> ● 適正体重の人の増加（保育園、小学6年生、20～69歳男性） ● 朝食を欠食する人の減少（中学3年生）
身体活動・運動	<ul style="list-style-type: none"> ● 1週間の総運動時間の増加（小学5年生男子、中学2年生男子女子） ● 児童生徒の体力合計点の向上（小学5年生男子女子、中学2年生男子女子） ● 定期的に運動をしている者の増加（40～64歳、65～74歳） ● からだをこまめに動かしている者の増加（40～64歳）
喫煙・飲酒	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人の喫煙率の減少（女性） ● 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少（女性）

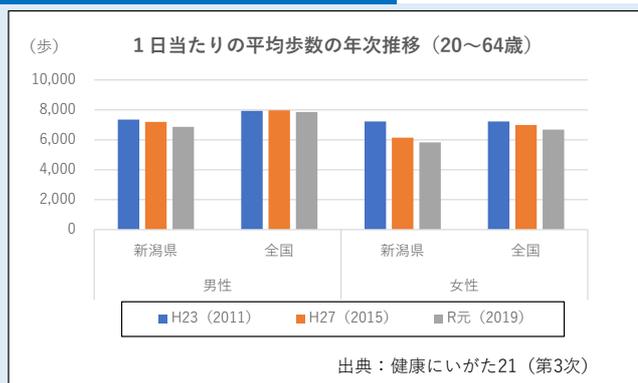
こころの健康	<ul style="list-style-type: none"> ● 睡眠で休養が取れている人の増加
がん （悪性新生物）	<ul style="list-style-type: none"> ● がん検診受診率の向上（肺がん） ● 精密検査受診率の向上（胃がん、乳がん）
循環器疾患・ 糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ● 高血圧の改善 ● 糖尿病有病率の増加の抑制 ● メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合 ● 特定保健指導の終了率
健康を支える健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康づくりを担う人材、団体数の増加（食生活改善推進員）

身体活動・運動

- 1週間の総運動時間の増加
(小学5年生男子、中学2年生男子女子)
- 児童生徒の体力合計点の向上
(小学5年生男子女子、中学2年生男子女子)
- 定期的に運動をしている者の増加
(40～64歳、65～74歳)
- からだをこまめに動かしている者の増加
(40～64歳)

7

身体活動・運動



健康日本21（第二次）最終評価でも課題
「健康づくりのための身体活動基準2013」見直し
「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」策定

肥満、睡眠、生活習慣病予防の課題にも関連する重要な生活習慣である

生活習慣の行動に関するもので、直接的な変化が期待できる

他計画の中での推進が難しく、健康増進計画で取り組む必要性が高い

企業・事業所からの身体活動・運動の取組へのニーズが高い

重点取組を「運動を習慣化する人、身体活動量を増やすための取組の強化」として設定したい

8

令和6（2024）年度～令和7（2025）年度 重点取組（案）

「運動を習慣化する人・身体活動量を増やすための取組の強化」

9

「運動を習慣化する人・身体活動量を増やすための取組の強化」

庁内関係課職員が把握している現状・課題 健康増進計画庁内連絡会議意見から

乳幼児期	学童期	青年期	壮年期	高齢期
<p>メディア接触の低年齢化、長時間化、運動量低下が心配 【子育て支援課】</p> <p>園児の肥満度が高く推移 【保育課】</p> <p>園児の怪我が多い。顔から転倒、バランスを崩す。 【保育課】</p> <p>市の未就学児の運動能力は他と比べて低い 【スポーツ振興課】</p>	<p>運動習慣のない人、活動量が低い人が増えている。 【健康推進課】</p> <p>転んだ時に手が出ない鉄棒で体を支持できないけんけんぱができない 【学校教育課】</p>	<p>解決すべき他の問題に目が行き、健康づくりの余裕がない。【福祉課】</p> <p>肥満が多く、生活習慣病に関する有所見者割合も高い。【健康推進課】</p>	<p>コツコツ貯筋体操 65歳以上の1割が参加 平均年齢78.5歳 前期高齢者が少ない。 【介護高齢課】</p> <p>要介護認定申請のきっかけ第二位は、骨折・転倒 【介護高齢課】</p>	
<p>メディアの長時間化 運動不足 肥満 運動能力の低下 バランス能力の低下</p> <p>怪我・転倒の増加</p> <p>運動習慣なし 肥満、生活習慣病</p> <p>転倒・骨折 要介護</p>				

10

取組（案）

- 「プラス10」を様々な場面で発信（SNSや保健事業での周知）
- ゲッピーヘルスケアアプリの登録者数の増加
- 企業・事業所への健康づくり宣言「運動普及キャンペーン」
- 園、学校を通じて、こどもや保護者への働きかけ
- 地域のコツコツ貯筋体操会場で運動をテーマにしたフレイル予防の講座を実施

運動習慣の定着、継続ができるような働きかけが必要と考えています。

重点取組についての御提案や御意見をお聞かせください。

